2022年度　初芝富田林中学校・高等学校　学校評価

1　教育目標

○本質を問い、本質を見極める力を養う

2　中期的目標

1．広い視野と深い思考につながる授業展開と特色教育を行い、自ら考え行動できる生徒の育成
2．明確な目標を持ち、積極的な進路選択につながる丁寧な進路指導とトップ進学校としての実績向上
3．弛まぬ向上心に満ちた友好的な職場環境の整備
4．選ばれる学校としての広報活動の実施

3　学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

<table>
<tr><th>学校教育自己診断の結果と分析</th><th>学校関係者評価委員会からの意見</th></tr>
<tr>
<td>
① 学校評価
■生徒のアンケートは年 2 回実施し、ほとんどの項目で高評価を得ているが、施設・整備に関しては経年劣化が目立つため要精査項目となっている。
■保護者のアンケートは年2回実施し、こちらも概ね高評価であるが、施設・設備に関しては生徒同様要改善項目となっている。
体育館の空調、自習室、図書館などに関しては、新しく設置およびリニューアルを使いやすい施設に少しずつ改善をしている。
② 授業評価
授業評価アンケートは年 2 回実施しており総合評価のポイントは下記のとおりである。2回目で落ちているが75ポイントが判断の基準とされており、概ね良い結果であった。
<table>
<tr><th>中学</th><th>全体</th><th>教壇系</th><th>実技系</th></tr>
<tr><td>1回目</td><td>86.3</td><td>86.1</td><td>86.7</td></tr>
<tr><td>2回目</td><td>85.3</td><td>85.5</td><td>85.0</td></tr>
<tr><th>高校</th><th>全体</th><th>教壇系</th><th>実技系</th></tr>
<tr><td>1回目</td><td>85.8</td><td>85.6</td><td>86.7</td></tr>
<tr><td>2回目</td><td>85.5</td><td>85.4</td><td>86.0</td></tr>
</table>
③ 教育方針
具体的な教育目標に関しては概ね達成できた。
進路目標に関しても、設定目標はほぼ達成できた。
募集目標に関しては、昨年からの微増であり次年度に向けての課題である。優秀層が志願してくれる状況に好転しつつある。
</td>
<td>
① 委員会の体制
大阪公立大学教授・彼方町会長・彼方町副会長・保護者会会長・校長・教頭2名・主幹・事務長
② 委員会の実施日
第1回8月29日（月）14：30
第2回3月23日（木）10：00
③ 自己評価の結果に対する評価
1回目は今年度の目標を中心にご理解いただき、2回目は年度を振り返る形をとっている。概ね説明内容を肯定的にご理解いただいている。意見では下記のようなものが出た。
○教育内容で、はつとん講座での講座は自由選択ばかりでなく強制設定のものも入れてはどうか。
○研究室訪問は魅力的。学力の下位層に何ができるかが大切。
○中学は親の考え、高校は本人の考えで入学してきている生徒が多いと思う。
○地方国公立大学は大変手厚い。下宿生と教員が一緒に朝ご飯を食べて不安をなくしたり、学会発表でもグループみんなでという雰囲気があったりする。
○初富は下位層からも国公立大・関関同立に合格者を出している。
</td>
</tr>
</table>

4　本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 授業・特色教育	(1) 教育目標「本質を問い、本質を見極める力を養う」の実現のための教育内容づくり	① 自ら学ぶ姿勢を養う日々の学びの充実（富読・Tonglish） ② 深い学びへの授業の質の向上（問い・質問力を鍛える） ③ 学びの拡充と実力養成のための放課後有効利用	① 日々の様子と英語リスニング偏差値の推移 ② 教員対象、年度末の問いの振り返りシートの提出 ③ 国数英の偏差値推移	① 形骸化をなくす工夫を生徒会とともに実施し、良い形になりつつある。 ② ほぼ全教員からの提出があり前向きに取り組めている ③ 高1、高2は昨年度に比べて力がついている。高3の進学実績は目標をほぼ達成した。	① 朝夕の取り組みの形骸化を防ぐ ② 全体での共有を図り、問いを意識した授業展開を行う ③ 特色と実力につながる講座を計画的に実施する
	(2) 次年度以降の飛躍のための礎を築く	① オンデマンド・AI 教材と授業を関係づけ取りこぼしのない前倒し授業の実施	① オンデマンド教材の配信数とAI教材の利用の多い数学の偏差値	① 進度も考えての単元ごとの計画的配信が必要	① シラバスの中に配信予定を入れ計画的に運用する
2 進路指導	(1) 進学実績のための取り組み	① 進路への動機づけと個別最適学習による進学実績の向上 ② 進路指導の更なる充実（企画の充実と継承・データ分析による長期的視野） ③ 難関大対策のチームをつくる	国公立推薦型合格20名 国公立大学合格50名 関関同立合格100名	国公立推薦型は目標に到達できなかったが、国公立大学・関関同立の合格者数は目標を達成した。推薦型に関しては方向性の見極めと対策が必要	国公立推薦型入試の受験指導の強化及び共通テストの受験者数増加

3 職場環境	(1) 業務のデジタル化	① 一人一台のタブレットの有効利用とペーパーレスの強化	① 連絡・会議でのペーパー利用数	生徒・保護者への連絡はさくらメールで、校内会議はタブレット等の利用で行った。その結果、ペーパーの消費量が大幅に削減できた。	更なるスリム化を検討する
4 広報活動	(1) 定員確保と安定経営の回復	① 入試部の組織的定期的な運営 ② 広報地域の重点化 ③ 特別奨学生制度の併願への拡充による広報効果 ④ 学力最上位層への新コースの早期広報 ⑤ 新制服の戦略的広報 ⑥ HP の計画的更新	① 塾訪問などの担当者の割り振り データの見やすさと処理速度 ② 沿線上の中学からの入学者数確保 ③ 特別奨学生制度の利用数 ④ 最上位コースへの入学者数 高校目標　３５名 ⑤ 説明会などでのアンケートの声 ⑥ HP での閲覧数	① 授業軽減の少ない教員の塾訪問は厳しかった データに関しては今後更なる見やすさを検討 ② 学力上位層の入学が伸びた ③ 基準を超えている併願生はほぼ利用した。一定の効果はあったと考えられる。周知拡大は今後とも必要 ④ ４３名の入学となった ⑤ 概ね好評であった ⑥ 学校生活の閲覧数は前年度に比べ上昇した。学校が活発に動いているという印象が好影響となった。	① 計画的・協力的に実施 ② 下位コースの特色を広報強化する ③ 人事により PC 堪能なものの配置を行う ④ 広報を早め専願志望を増やす ⑤ 説明会などで継続して広報 ⑥ 頻繁に更新閲覧したくなる HP 作成を行う